



国際ロータリー第2620地区

<https://www.gotemba-rc.gr.jp/>



御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

御殿場 ロータリークラブ 週報

第2609回 例会プログラム

- 例 会 場 / 東山荘講堂
- 開 会 点 鐘 / 12:30
- ローターソング / 我等の生業
- 内 容 / 会員卓話 久保田勇輝君

会 員 慶 事

- 夫人誕生日 / 9月12日 若林洋平君 ご夫人 雅美様
9月16日 神谷高義君 ご夫人 和子様
- 結婚記念日 / 9月15日 豊山 篤君 佳子様 ご夫妻
9月15日 勝又 淳君 暢子様 ご夫妻

会 長 挨 拶

白 井 良 太



今回は「軟弱地盤」について話します。

軟弱という言葉はあまり良い意味では使われませんが、地盤の場合にも軟弱地盤といえればこれはもう大変なことで、全く困った地盤です。

この付近では東名御殿場インター付近の便箋塚、沼津の愛鷹山の裾野の浮島、函南町の大平などがあります。このような地盤はまだ固まっていない若い地面ですが、若いと言っても地質学上で若いというだけで、人間の歴史より古く数千年前に形成されています。

その他の地域では、羽田空港、東京の湾岸地区、名古屋港などの海岸を埋め立てて間もない地面などで、このような土地は自分の重さで毎年10センチ

くらい沈下します。そんな地面に改良せずに重たい建築物を建てたら大変なことになることは明らかです。

御殿場IC付近は掘削するとアンなどが出てきます。これは、昔この地域が沼地であったため、今は植物性の繊維だけが残っていて、このような土を有機質土といいます。インター前の旧国道138号線などは以前未舗装だった頃に、ある業者が自分達が走るために、碎石を厚く何度も繰り返し撒いたに違いないと思います。確かな事ではないですがその付近の歩道は碎石が1m位の厚さで入っています。

また、以前、沼津の愛鷹方面で商店の建築を行ったのですが、床が下がってしまい訴訟問題になったことがありました。ただ、当社には責任がなく設計に問題があるとのことで設計会社の責任になりました。柱の間隔が離れすぎていてコンクリート床が下がってしまった事でした。

土地を買うときは、色々なことに注目してください。



会長挨拶用
QRコード

9/3の出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の確定出席率
55名	49名	47名	95.92%	100%

欠席者(2名)

※やむを得ず欠席される方は、午前9時50分までにご連絡下さい。



司 会
勝又英和君



出席報告
勝又安彦君



会員誕生日
豊山徹也君



ROTARY OPENS
OPPORTUNITIES

ロータリーは機会の扉を開く

次 回
9月17日の
例 会

- ★東山荘講堂
- ★12:30点鐘
- ★コロナ 我が社の対策と影響
芹澤隆博君

ロータリーの友月間に因んで



雑誌文献委員長

長田 富夫 君

9月は「ロータリーの友月間に因んで」ということで、まずは『ロータリーの友』のこれまでの歩みを振り返るとともに、御殿場ロータリー入会5年目の会員2名に卓話をいただくことにします。

1952-1953年度から、日本のロータリーは東日本と西日本の2地区に分割されることになりました。1952年4月の第60回地区大会では、いくつかの問題が話し合われ、その中の一つに日本の2地区で共通の雑誌発行の決定がありました。これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として企画されました。

準備会から始まり、新しい雑誌について本格的に色々なことが決められたのは、1952年8月に、岐阜市長良川河畔にあった大竹旅館での会合だそうです。1953年1月から毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすること等が決定されました。

また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか、横書きにするかで意見が分かれ、全会員の多数決により、2対1の割合で横書きが採用されることになりました。戦後10年も経っていなかったという時代背景を考えると、この結果は当時のロータリアンがいかにも先進的な考えを持っていたかを知るこのエピソードです。

広告を取ることを決定したものの、発行部数が3,300部に過ぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたものの、まだまだ経済的に苦しかったこともあり、スポンサーを見つけることは容易ではなく、創刊に携わったロータリアンが自ら走り回り苦労して広告を取ったという逸話が残っているということです。因みに、2020年8月号の発行部数は92,100部です。



長谷川 雅也 君

私のロータリー歴と共に、この『ロータリーの友』が私の“愛読書”になったのも5年目に突入します。最初に手にした時は「どっちが表紙!？」と、何とも言えない違和感を覚えましたが、皆様はどちら側から読みますか？

ところで、私たちが「ロータリーから何を得るか？」は、「ロータリーで何をしたか？」にかかっていると思います。幅広い活動をするためには、近郊クラブのことはばかりでなく、日本中・世界中のクラブやロータリアンのことを知らなければなりません。しかし、全世界に出かけて行って多くのロータリアンに会い、見聞きすることは簡単なことではありません。ほぼ不可能です。そこで、この『ロータリーの友』の存在意義があると思います。

この雑誌から様々な情報を入手しそれを実際の活動に生かすという、自分なりのロータリー活動を充実させる一つのアイテム（ある意味“参考書”のような存在）として、そしてこれからも“愛読書”の一つとして付き合っ参りたいと思います。



鎌野 篤志 君

『ロータリーの友』には、毎号さまざまな記事がありますが、8月号にとっても興味深い記事がありました。それは「私がロータリーを続ける理由、そしてその魅力」という特集です。その中で、ロータリーにいる意味が分からず、いつ辞めようかと考えていた方が、一転、ロータリーを続けていきたいと思うに至った経験談は印象的でした。ある時、社員教育の講師から「あなたは社員の仕事を奪っている。居るだけで安心感を与える存在になれ」と言われたそうです。忙しそうに働くことが、社員から認められる姿勢だと思っていたことが180度覆され「自分の存在感」と向き合う必要に迫られたということです。一方で、自分はロータリーの先輩たちに接する中で、安心感と信頼感を抱いていることに気付き、居るだけで周囲を幸せにできる人徳者になるための道場、それがロータリーだと思いついたとのことでした。

私も最初はこの方と同じ考えでいましたが、やはりそうではなく、会社でもロータリーでも居るだけで安心感を与えられる、そんな存在になりたいと感じました。幸運なことに、この御殿場ロータリークラブにもそうした方たちがたくさんいらっしゃいます。これから更に先輩方の立ち居振舞いを学び、また『ロータリーの友』も併せて有効に活用していこうと思います。

9/3のスマイル

「お久しぶり」 芹澤正明君

Rotary 国際ロータリー第2620地区

御殿場ロータリークラブ

○例会日/木曜日
○例会場・事務局/YMCA 東山荘
静岡県御殿場市東山1052
電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138
<https://www.gotemba-rc.gr.jp/>

会 長 ○ 臼井 良大
幹 事 ○ 秋田 敬
会報委員長 ○ 鈴木 善明